

プレス発表資料



令和 8 年 9 月 1 日
秋 田 大 学

悲慘な重症者をゼロに。 秋田大学、「クマ外傷重症化軽減プロジェクト」を始動 — 減災用品の開発と防御姿勢の普及へ、クラウドファンディングを開始 —

秋田大学（学長：南谷 佳弘）地域共創機構 地域防災減災部門は、クマによる外傷の重症化を防ぐための「減災用品」の産学連携による開発と、遭遇時の「防御姿勢」の普及・浸透を進める「クマ外傷重症化軽減プロジェクト」を加速させるため、クラウドファンディングサービス「READYFOR」にて 500 万円を目標に、2026 年 9 月 1 日（火）から 10 月 30 日（金）まで支援を募ります。

（プロジェクト URL：<https://readyfor.jp/projects/kuma-emergency>）



■「クマ外傷重症化軽減プロジェクト」について

昨年、2025 年度は全国的にクマの出没・人身被害ともに統計開始以来、過去最悪の規模となりました。そのうち人身被害が 67 件と全国最多となったのが、秋田県です。*1

秋田大学医学部附属病院 高度救命救急センターでは、30 年にわたりクマ外傷の治療を担当し、これまでに 150 例以上の患者を診てきました。直近 3 年間では 43 名の被害者を受け入れ、2025 年度だけでも 18 名が搬送されています。クマによる外傷はそのほとんどが頭頸部に集中し、非常に凄惨で、深い憂慮を抱く症例が少なくありません。治療した被害者の 90% に顔面損傷がみられ、顔面骨骨折、眼球破裂による失明、頭蓋骨骨折・頭蓋内出血など重篤な損傷が確認されているほか、15%が出血性ショックによる緊急輸血、15%が気道確保のための気管挿管、52.6%が緊急手術を要しています。*2 これは、クマ外傷が「ただのケガ」で

はなく、生命に関わる重篤な外傷であることを示しています。さらに、救命できたとしても、鏡を見るたびに受ける精神的トラウマや、長期にわたる社会復帰へのハードルなど、退院後も患者さんご家族の苦悩は続きます。

人間の生活圏でクマと遭遇するリスクが高まっているにもかかわらず、一般の生活者や児童が散歩や農作業、登下校時にクマに遭遇してしまった際の被害を極力防ぐ・軽減するための効果的な防具や具体策は未だ十分に存在しません。治療だけでは救えない領域がある——この悔しさを原動力に、「クマ外傷重症化軽減プロジェクト」として、救急医の知見を活かして以下の二つの柱を中心に研究を進めてきました。

第一に、身につけて守る、地元企業である廣瀬産業株式会社との産学連携による「減災用品」の共同開発です。一般の生活者や子どもたちがストレスなく気軽に身に付けられる高いデザイン性と、クマの爪や牙による致命的な外傷（頸動脈や顔面の損傷）を軽減する機能性を両立したプロテクターや衣類、アクセサリ等の開発を行います。

右の写真は、開発中の「プロトタイプ（試作品）」です。



第二に、知って行動する「減災教育の展開」です。クマとの遭遇時、致命傷を避けるための正しい「防御姿勢」をイラストや動画、体験型イベント等を用いて地域へ周知徹底します。

右の写真は、人里に出没するクマへの対策や遭遇した際の対応などをクイズ形式で学べるツールを作成し、児童向けに実施したイベントの様子です。



■クラウドファンディング実施の背景について

通常の研究開発プロセスや公的資金の獲得には、資金獲得から研究・開発、検証まで一定の時間を要します。一方で、クマによる人的被害が急速に広がる中、「一刻も早く、重症化を軽減するための研究開発を進めること」が重要です。

そこで秋田大学では、クラウドファンディングを活用し、以下の二つを実現します。

① 迅速な資金調達による研究開発の加速

第一線でクマ外傷の治療にあたる救急医の臨床知見を直接反映したプロトタイプの開発・検証を進め、企業等との連携による社会実装を目指します。

② クマ被害に関する知見と「防御姿勢」の社会周知

クラウドファンディングを通じてプロジェクトの必要性を広く伝え、万一刻にクマに遭遇した際の適切な防御姿勢など、命を守るための知識を社会に広めます。

今回のクラウドファンディングは、単なる研究資金の調達にとどまらず、行政や医療機関だけでなく、地域住民の皆様とも課題を共有し、地域全体でクマ被害の重症化を減らしていくための取り組みです。

■「悲惨な重症者をゼロに」——救急医の知見を地域の減災へ

頭頸部を中心とした凄惨な外傷、そして一命を取り留めた後も PTSD などの心の傷に苦し

む患者さんを診るたび、私たちは深い痛みと、この現状を変えなければならないという強い使命を感じています。

だからこそ、私たちは「病院に運ばれてきた命を救う」だけでなく、その前の段階で重症化を防ぐことに取り組みます。この取り組みは、「体」のみならず、未来の「心」まで守ることにつながると信じています。

救急医療、工学、地域企業、そして地域住民の力を掛け合わせ、秋田から新しい「クマ被害への減災モデル」をつくり、将来的には同様の課題を抱える全国の地域への展開を目指します。

■クラウドファンディングプロジェクト概要

- ・タイトル：悲惨な重症者をゼロに。クマ外傷重症化軽減のプロジェクト推進へ
- ・URL：<https://readyfor.jp/projects/kuma-emergency>
- ・目標金額：500 万円
- ・募集期間：2026 年 9 月 1 日（火）9 時 ～ 2026 年 10 月 30 日（金）23 時（59 日間）
- ・資金使途：クマ被害重症化の軽減・減災のための研究・開発活動費、教育活動費、またその他手数料・諸経費として
- ・形式：All or Nothing 形式

※All or Nothing 形式は、期間内に集まった支援総額が目標金額に到達した場合にのみ、実行者が支援金を受け取れる仕組みです。

*1：クマ類による人身被害について [速報値]（環境省）

*2：Tsuchida H, Satoh K, Hirasawa N, Okuyama M, Nakae H. Characteristics of black bear-related trauma: A retrospective observational study. *Acute Med Surg.* 2024 Oct 7;11(1):e70009. doi: 10.1002/ams2.70009. PMID: 39376231.

※別紙チラシも併せてご確認ください。

【問い合わせ先】

■プロジェクト内容について

(担当) プロジェクトメンバー

秋田大学

大学院医学系研究科 救急・集中治療医学講座 教授 中永士師明

大学院理工学研究科 システムデザイン工学専攻 教授 徳重英信

情報データ科学部 講師 門廻充侍

未来研究統括機構 イノベーションオフィス 特任准教授 URA 爪林研人

電話：018-889-2703

Email：bear-crowdfunding@crc.akita-u.ac.jp

■その他について

(担当) 秋田大学 地域共創機構 地域防災減災部門 佐々木

電話：018-889-2270

Email：bear-crowdfunding@crc.akita-u.ac.jp